

405 化学療法副作用である血小板減少症を克服する夢のMolecule, Thrombopoietin (TPO)の登場

東京医大

鈴木康伸, 斎藤俊雄, 武市 信, 足立 匡,
牧野秀紀, 高山雅臣

【目的】化学療法の副作用のうち顆粒球減少症, 赤血球減少症は, 各々 Granulocyte Colony Stimulating Factor (G-CSF), Erythropoietin (EPO)によりその軽減が図られるようになった。しかし, 血小板減少症にたいしてはいまだ有効な対策がない。しかし, 1994年ついに血小板増加因子 Thrombopoietin (TPO)の存在が確認され, その臨床応用の可能性が世界の注目するところとなった。今回われわれは, 近い将来実現するであろう TPOの臨床応用に先立ち, 化学療法剤による骨髓機能抑制マウスを用いて TPOが血小板減少症を完全に克服できるか検討した。【方法】1. BDLマウスに 70, 90, 120 mg/body のカルボプラチン CBDCA を投与し, 経時的に採血して末梢血小板数を計測した。2. 90 mg/body の CBDCA を投与したマウスに連日 5 日間 5 μg/body の TPO を皮下注して血小板数を計測した。3. 10 μg/body の TPO を 7 日間投与してそのときの骨髓での巨核球数とその形態変化を光学顕微鏡, 電子顕微鏡を用いて観察した。【成績】1. CBDCA の投与量におおじて, 血小板数は減少した。120 mg/body では時に致死量となったため, 以後 90 mg/body を至適投与量とした。2. TPO 投与群は, 非投与群と比較して血小板減少を抑制するにとどまらず完全に克服した。3. TPO 投与により, 骨髓内での巨核球数は約 4 倍となり, 核の polyploidy の増加などの成熟促進効果も確認された。【結論】産婦人科領域での TPO についての報告はいまだ皆無であるが, 今回の研究により TPO が化学療法剤により生じる血小板減少症を克服できる可能性が確認された。今後 TPO 単独または G-CSF, EPO との併用により, より強力で安全な化学療法が行える可能性が示唆された。

406 前置胎盤における周産期予後の検討
-特に母体背景と新生児身体的発育, 肺成熟-

大阪府立母子医療センター, 健康保険鳴門病院*
別宮史朗, 光田信明, 河本明子, 早田憲司,
福家信二, 永田光英, 岩田守弘, 清水郁也,
末原則幸, 前田和寿*

[目的]前置胎盤の症例では胎児発育が障害されたり, 妊娠末期にもかかわらず呼吸状態の思わしくない児をみることがある。そこで多数例の前置胎盤症例における, 母体背景, 児の身体的発育, 呼吸障害などにつき後方視的検討を加えた。

[方法]1981年から1995年の間に当科にて前置胎盤と診断されたもののうち, 多胎, 奇形, 死産等を除く260例を対象とした。呼吸障害とはRDS, 一過性多呼吸, 無呼吸発作のいずれかを認めたものとした。

[成績]母体の平均分娩年齢は30.8才, 初妊婦は48例(18.5%)であった。子宮内容清掃術の既往者は121例(46.5%), 帝切既往者は23例(8.8%)であった。平均出血は1338mlで, 輸血を施行したのは25例(9.6%), 帝切後に子宮全摘術を行ったのは10例あり, うち4例は帝切既往者であった。平均在胎日数は243日(34週5日), 平均出生体重は2294gであった。正常発育群は239/260 (91.9%)であり, SFDは11/260(4.2%)であった。呼吸障害は在胎39週以降の16例中ではなかったが, 38週では1/39(2.6%), 37週では3/44(6.8%), 36週では5/28(17.9%), 35週では7/22(31.8%)であった。妊娠中毒症を合併した症例は5例(重症1例)のみであった。

[結論]前置胎盤症例の検討から以下の知見をえた。
①初妊婦は少なかった。②反復帝切症例では子宮全摘術が有意に高率であった。③妊娠中毒症の合併は5例と少なく, SFDは11例のみであった。④在胎週数が35週以降であっても呼吸障害を発症する率が高かった。